

ロバート・カツが提唱した「コンセプチュアル・スキル」の重要性
その核となる思考技術を研修化したプログラムです

概念を起こす力・意味を与える力・観をつくる力を養う
『コンセプチュアル思考』研修

「読み・書き・そろばん」——世を生きていくための基盤能力として昔の人はこの3つをあげました。こうした万人が修養すべき基盤能力を英語では「リテラシー（literacy）」といいます。昨今、その概念の適用は、情報リテラシー、メディアリテラシー、金融リテラシー、経営リテラシーなど、さまざまに広がっています。

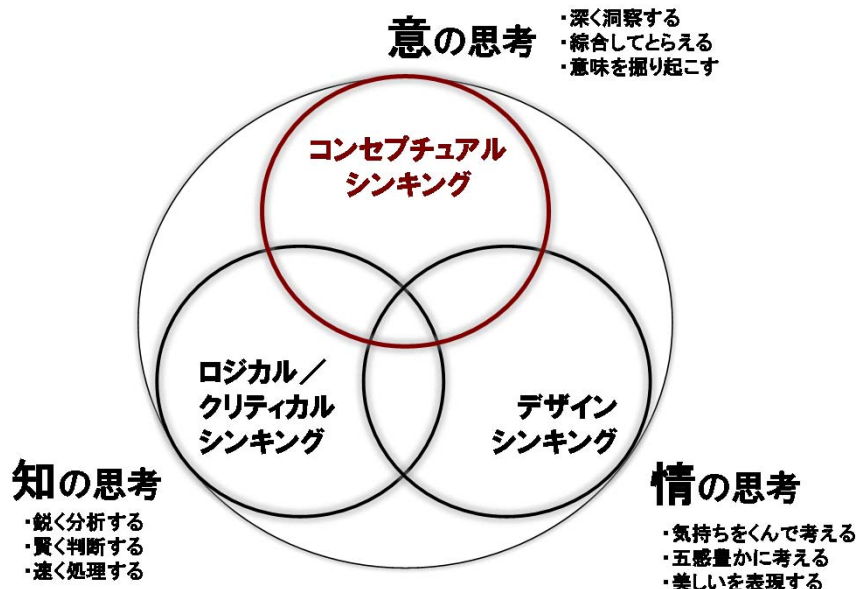
直面する状況や扱う情報がますます複雑になるビジネスの現場において、物事をきちんと考える能力は、まさにリテラシーとして求められています。私たちは物事を考えているといっても、どれだけきちんと思考できているでしょうか。単に頭の回転が速いとか、記憶力がいいとか、文章力が優れているとかの能力の高さが、必ずしも業務パフォーマンスや事業推進力、リーダーシップ、自律的な働き方に比例していないことを私たちは知っています。また、知識はたくさん持っているのに見識がない人、語学力があってもその言葉で自分の意見を書けない人をそこかしこで見えています。考える能力のもととなる読み、書き、計算、知識記憶はあるものの、考える切り口を見つけることができない、考える内容を豊かに持つことができない、考える自分を力強く導くことができないというのが、多くのビジネスパーソンに起こっていることです。

ビジネスパーソンに向けた思考の基盤能力を養う教育プログラムは、すでに広がりを見せています。「ロジカル/クリティカル・シンキング」や「デザイン・シンキング」がそれです。これらの思考技術は、職種・業界を問わずどんなビジネスパーソンにおいても有効なものでしょう。ただ、教育的観点からすると、この2つの思考フレームではカバーしていない領域の思考技術訓練がみえてきます。そこにキャリアポートレートコンサルティングは着目しました。

* * * * *

哲学者カントは、人間の精神のはたらきとして「知・情・意」を考えました。人間の思考は当然そうした精神のはたらきの影響下にあります。その観点からながめると、人間の思考活動として次の3つがみえてきます——すなわち「知の思考・情の思考・意の思考」です。

例えば思考のなかでも、「鋭く分析する」「賢く判断する」「速く処理する」といったときの思考は、「知」のはたらき主導でなされる種類であるように思います。一方、「人の気持ちをくんで考える」とか「心地よさを形にする」「美しいを表現する」ときの思考は、「情」のはたらきに引っ張られているように思います。さらにはもう一つ、「深く洞察する」「総合してとらえる」「意味を掘り起こす」といった思考は、「意」のはたらきが影響する種類とみることができます。



すなわち、3つの領域の思考リテラシー教育として次のように整理されます。

- 「知の思考」を鍛える→「ロジカル/クリティカル・シンキング」
- 「情の思考」を鍛える→「デザイン・シンキング」
- 「意の思考」を鍛える→「コンセプチュアル・シンキング」

「意の思考」でいう「意」とは、意志、意味、意義、意図、意見です。意は「念」に通じていて、概念、観念、信念、理念にかかわります。そして意や念は、英語の「コンセプト：concept」に通じます。「意の思考」にかかわる「コンセプチュアル・シンキング」の教育は、わかりやすく言うと次のようなことを目指します。

- ・ 根源を見つめ概念化する思考態度をつくる
- ・ 本質をつかみモデル化する力を鍛錬する
- ・ 独自のとらえ方＝観をつくる。そしてその観にもとづき意志のある仕事ができる
- ・ 深く豊かにものごとを咀嚼（そしゃく）する力を養う
- ・ 理念にもとづいた商品・サービスをつくる
そして大局観に立った事業のグランドデザインを描くことができる
- ・ 意味をつくり出す人をつくる

コンセプトという、何か企画を起こすときの軸となる考え方を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、それは狭い意味で、この語は本来、「つかむ・内に取り込む」という意味を持っています。私たちは感覚器官を通して物事からさまざまな刺激や情報を受け取り、意や念としてつかんでいきます。さらには経験として取り込んだものを総合して、物事の奥にひそむ本質をみようとしたり、物事に意味を与えたりします。そうして観（＝物事の見方）という心のレンズを醸成します。これらの認識活動をカバーする言葉が「コンセプチュアル」です。

振り返ってみれば、私たちビジネスパーソンにとって、日ごろ「コンセプチュアルに考える」場面はたくさんあります。

〈一業務担当者〉として、

- ・ 製品のコンセプトをどうするか
- ・ 直面する状況の問題構造をいかにモデル化して説明するか、など。

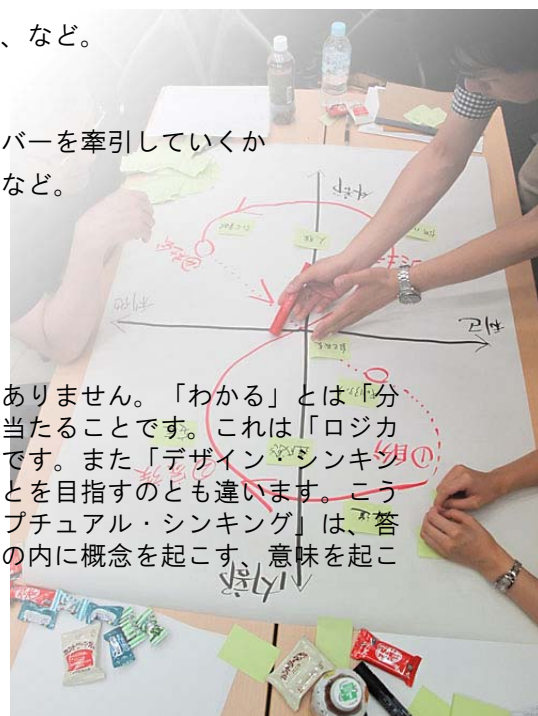
また〈管理職者〉であれば、

- ・ どうチームのビジョンを描くか、どう理念を打ち出しメンバーを牽引していくか
- ・ リーダーとしてぶれない軸を持つためのその軸とは何か、など。

さらには年齢や立場がどうであろうと〈一職業人〉として、

- ・ 自分自身の職業人としての存在意義は何か
- ・ 働く動機は何か、など。

こうした問いに向かう思考は、「わかる」を目指すものではありません。「わかる」とは「分かる／解る」と書くように、物事を分解していつて何か真理に当たることです。これは「ロジカル・シンキング」をはじめとする「知の思考」が担当する分野です。また「デザイン・シンキング」をはじめとする「情の思考」が得意とする「表現する」ことを目指すのとも違います。こうした問いを考えるとこそ「意の思考」の出番です。「コンセプチュアル・シンキング」は「答えを「起こす」ことを目指す思考だからです。すなわち、自分の内に概念を起こす、意味を起こす、観（＝ものごとの見方・とらえ方）を起こすのです。



1981年にノーベル化学賞を受賞した福井謙一氏は次のように言っています。

「結局、突拍子もないようなところから生まれた新しい学問というのは、結論をある事柄から論理的に導けるという性質のものではないのです。では、何をもって新しい理論が生まれてくるのか。それは直観です。まず、直観が働き、そこから論理が構築されていく。(中略)だれでも導ける結論であれば、すでにだれかの手で引き出されていてもおかしくはありません。逆に、論理によらない直観的な選択によって出された結論というのは、だれにも真似ができない」。

—— 『哲学の創造』PHP研究所より

私たちは、「賢いだけの頭」「処理するだけの手足」を増やせばいいのでしょうか——？

企業の人事部や経営層の方々と議論をすると、必ず出てくるのが「うちも『iPhone』のような製品を生み出す人材が育てられないか」「なぜうちの社員は『iPhone』のような発想ができないのか」という声です。故ステーブ・ジョブズ氏を中心にアップル社がつくりあげた一連の製品群(iMacからiPod、iPhone、iTunes、iPadに至るまで)は、はたして論理的な思考の賜物だったのでしょうか。確かに論理は重要だったでしょう。しかし何よりも決定的だったのは、コンセプトを起す力であり、グランドデザインを描く力であり、製品世界をイメージする力でした。さらには「Think different」という同社が文化として持っている強力な意志の力でした。これらはコンセプチュアルな能力に属するものです。また、もう一つ忘れてならないのは、彼らの美・快の体験価値を具現化する力です。あれらの道具に最初に触れたときの操作感覚の驚き。そして日常使うときのウキウキ感。それらの実現には卓越したデザインの思考が不可欠でした。

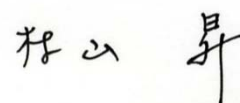
ビジネスパーソンにとって、帰納的・演繹的に推論ができる、「MECE」に考えることができる、あるいは「4C」や「SWOT」「5forces」などの思考ツールを使いこなすことができる、といった「知の思考」技術は武器になります。しかし、それらは万能ではありません。『iPhone』のような独創的なアイデアは、福井氏も指摘するように論理とはちがうところでの飛躍によって起こります。

その飛躍を可能にするものこそ、「意の思考」であり、「情の思考」です。むしろ論理はその発想の飛躍を助けるために有用なものといえます。要は「知・情・意」3つの思考の基盤能力を養い、それらをたくみに融合させる分厚い思考ができるようになることです。

ますますスピードが加速するビジネス世界にあって、私たちは末端の専門知識・末端の製品技術の競争に忙しく立ち回っています。そのために根源をみることをしなくなりました。個と組織のほんとうの力をつけるためには、根源をみつめ考える力が必要です。存在を考える、意味を見出す、本質をつかむ。そのうえで末端の競争、処理、効率化に動く。この視点に立ち、キャリアポートレートコンサルティングは、基盤的な思考教育として「コンセプチュアル思考」を研修プログラム化したしました。

ロバート・カッツが提唱した「コンセプチュアル・スキル」の重要性。その核となる思考技術を研修化したプログラムです。本資料を参考にいただき、自組織での実施をご検討いただければ幸いです。

キャリア・ポートレートコンサルティング 代表



『コンセプチュアル思考』研修 ラインナップとプログラム

『コンセプチュアル思考』研修は、現在、下の6つのラインを設けています。1つめの「商品発想・事業発想の深化コース」は、コンセプチュアルに思考する対象を製品・サービス・事業・チーム組織に置いたものです。2つめの「仕事・キャリアの意識変革コース」は、思考の対象を仕事・キャリアに置いたものです。

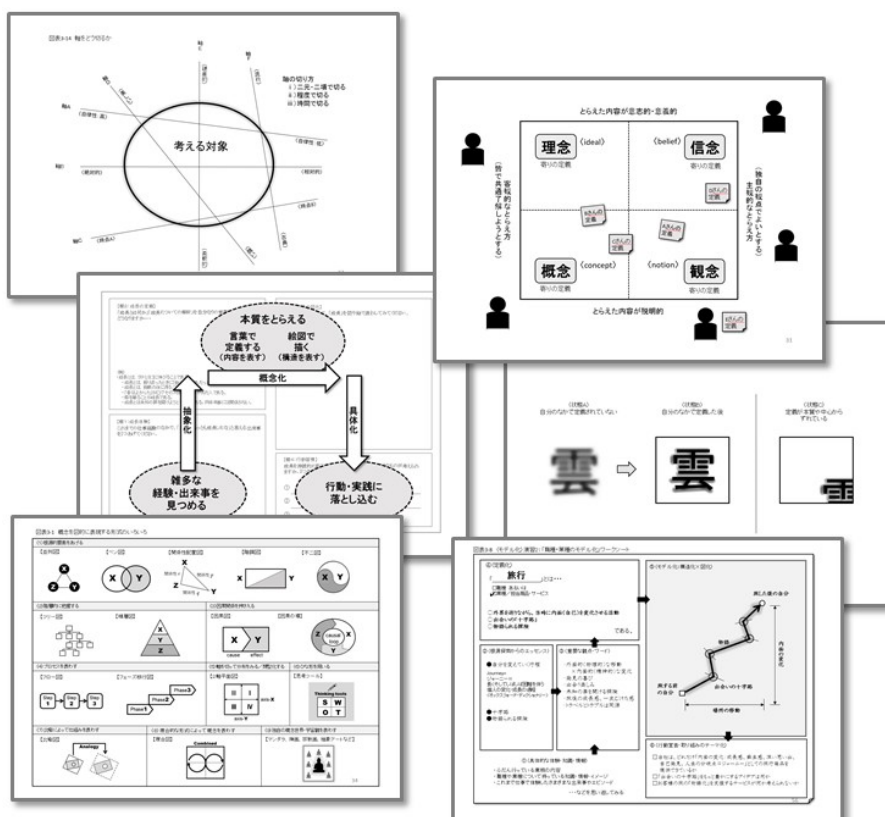
■商品発想・事業発想を深化させるコース

コンセプチュアル思考 〈ベーシック〉プログラム	集合研修・講師派遣 1日間(7時間)	コンセプチュアル思考の基本を習得するプログラムです。商品・事業の担当者からリーダー/マネジャーまでを対象とします。⇒詳細5ページ
コンセプチュアル思考 〈アドバンス〉プログラム	集合研修・講師派遣 1日間(7時間)	〈ベーシック〉から発展した内容です。リーダー/マネジャーを主対象とします。⇒詳細6ページ
コンセプチュアル思考 〈インテンシブセミナー〉	集合研修・講師派遣 2時間30分×4回	〈ベーシック〉の内容を短時間のセミナー形式に落とし込んだものです。時間や回数はご要望に応じます。

■仕事・キャリアに対する意識変革を起こすコース

コンセプチュアル思考 〈ワークマインド醸成〉プログラム	集合研修・講師派遣 1日間(7時間)	20~30代の社員向けです。入社3年~5年目のフォロー研修やキャリア研修として有効です。⇒詳細7ページ
コンセプチュアル思考 〈ワークマインド活性化〉プログラム	集合研修・講師派遣 1日間(7時間)	40~50代の社員を対象とします。キャリア研修や自己啓発研修として有効です。⇒詳細8ページ
コンセプチュアル思考 〈仕事観ワークショップ〉	集合研修・講師派遣 2時間30分×5回	さまざまな「観」を掘り起こす短時間の連続ワークショップ形式です。⇒詳細9ページ

各プログラムとも豊富な演習とワークシートを用意しています。



* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

製品・サービスに新しい概念の眼を入れる

コンセプチュアル思考〈ベーシック〉プログラム

○対象：製品・サービス担当者、プロジェクト・事業を受け持つリーダー／マネジャー

○形式：集合研修・講師派遣・1日間（7時間） 〈スライド講義×ワーク×ディスカッション〉

○狙い：

本プログラムは、コンセプチュアル思考の基本を理解・習得するものです。製品・サービス担当者から、事業リーダー／マネジャーまで幅広くを対象とします。

自らの業界そのものを根源的に見つめなおし、その本質をつかむ。そして自らの製品・サービスを概念的にとらえなおす。また、自らの製品・サービスが世の中に果たす意味を考える。——こうした思考演習を通して、担当商品を新たな角度からよみがえらせると同時に、担当業務に新たな意義やモチベーションを掘り起こすのが本プログラムです。

全社的な自己啓発系研修（手挙げ式）メニューとしてご用意されたり、事業部単位やプロジェクトチームでの選抜研修に向いています。

○コース概要：

■第1部：「コンセプチュアル思考」とは何か

・「知・情・意」の思考

「知の思考」→ロジカル思考

「情の思考」→デザイン思考

「意の思考」→コンセプチュアル思考

・なぜ「コンセプチュアルに考える」ことが大事なのか

・「3つの思考フロー」

1) 抽象化（引き抜く）

2) 概念化（とらえる）

3) 具体化（ひらく）

・「4つの思考スタンス」

●根源を見つめる

●全体を観る

●抽象と具体を往復する

●客観を超えて主観を持つ

・「5つの思考スキル」

1) 定義化

2) モデル化

3) 類推

4) 精錬

5) 意味化

・コンセプチュアル思考が養う力

○根っこを見つめる力 ○本質を凝縮して表わす力

○構造・関係・仕組みをつかむ力 ○図で観る力 ○類型化する力

○他から学ぶ力 ○比喩を用いる力

○概念を起こす力

○意味を見出す力 ○ビジョンを描く力 ○価値の葛藤を乗り越える力 ○自己を再編する力

■第2部：商品発想・事業発想を深化させるコンセプチュアル思考

【演習1】自らの業種の本質をつかむ

・「製造」業の本質は何か？ 「保険」業の本質は何か？

・業種名の語源にひそむコンセプト

・自らの業種を自分の言葉で定義する

・自らの業種を一枚の絵で表わす

【演習2】担当する製品・サービスに新しい光を当てる

・自商品を見つめなおす6つのコンセプト精錬方法

・既成の発想枠を外す「見立てドローイング」

・異種要素の「掛け合わせ」による概念創造

・商品の「コモディティ」化を防ぐ発想

【演習3】4象限マトリクスで物事をつかむ

・4象限図の好例

・2つの軸をどう切るか

・戦略的市場マップの描き方

【演習4】商品・事業に意味を与える

・私の提供価値宣言～自分はこの商品・事業を通して何の価値を世の中に届けているのか

・我が社の提供価値宣言～自社はこの商品・事業を通して何の価値を世の中に届けているのか

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

事業とチームに新しい概念・観念・理念・信念の光を当てる コンセプチュアル思考〈アドバンスト〉プログラム

○対象：プロジェクト・事業を受け持つリーダー／マネジャー、製品・サービス担当者
○形式：集合研修・講師派遣・1日間（7時間）〈スライド講義×ワーク×ディスカッション〉

○狙い：

本プログラムは、コンセプチュアル思考の発展・応用的な技術を習得するものです。主たる対象者はプロジェクトや事業を受け持つリーダー／マネジャーですが、「コンセプチュアル思考〈ベーシック〉プログラム」を修了した製品・サービス担当者にも適しています。

自らのプロジェクトや事業を根源的に見つめなおし、その本質をつかむ。そして自らの事業にコンセプトを与える思考訓練をします。このとき、強い事業における「コンセプト」とは、“概念”を超えて“理念”や“信念”へと昇華させていかねばならないことを学びます。理論的客観を超えたところに構える意志的な主観をつくりだすための演習にさまざま取り組みます。

また、そうした意志的なコンセプトのもとにメンバーを巻き込んでいく求心力の創造についても触れていくところが本プログラムの特長です。

管理職研修や自己啓発系研修（手挙げ式）のメニューに向いています。

○コース概要：

■第1部：「コンセプチュアル思考」概観

- ・「知・情・意」の思考
 - 「知の思考」→ロジカル思考
 - 「情の思考」→デザイン思考
 - 「意の思考」→コンセプチュアル思考
- ・なぜ「コンセプチュアルに考える」ことが大事なのか
- ・「3つの思考フロー」
 - 1) 抽象化（引き抜く）
 - 2) 概念化（とらえる）
 - 3) 具体化（ひらく）
- ・「4つの思考スタンス」
 - 根源を見つめる
 - 全体を観る
 - 抽象と具体を往復する
 - 客観を超えて主観を持つ
- ・「5つの思考スキル」
 - 1) 定義化
 - 2) モデル化
 - 3) 類推
 - 4) 精練
 - 5) 意味化
- ・コンセプチュアル思考が養う力
 - 根っこを見つめる力 ○本質を凝縮して表わす力
 - 構造・関係・仕組みをつかむ力 ○図で観る力 ○類型化する力
 - 他から学ぶ力 ○比喩を用いる力
 - 概念を起こす力
 - 意味を見出す力 ○ビジョンを描く力 ○価値の葛藤を乗り越える力 ○自己を再編する力

■第2部：商品発想・事業発想を深化させるコンセプチュアル思考

- 【演習1】自らの事業観をあぶり出す
 - ・事業を運営すれど、事業観のない人は多い
 - ・「事業」とは何かを自分の言葉で定義する
 - ・自らの事業を一枚の絵に表わす
 - ・過去の偉大な経営者は事業をどう定義したか
- 【演習2】成功事例をモデル化する
 - ・モデル化して考えるとはどういうことか
 - ・成功の仕組みを型（パターン）に落とし込む
 - ・ビジネスモデルの引き出しを増やす
- 【演習3】メンバーが共有できる理念づくり・ビジョン描き
 - ・私の提供価値宣言～自分はこの商品・事業を通して何の価値を世の中に届けているのか
 - ・我が社の提供価値宣言～自社はこの商品・事業を通して何の価値を世の中に届けているのか
 - ・核にある価値を理念化する
 - ・抽象的理念を具体的イメージと行動目標へ
- 【演習4】価値の葛藤を乗り越える
 - ・価値のジレンマケース討論
 - ・組織人格と個人人格の間で
 - ・「現実の自分」を高台から見下ろす「もう一人の自分」

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

20代～30代向け
仕事・キャリアに軸と力を与える
『コンセプチュアル思考』ワークマインド醸成コース

○対象：20～30代社員

○形式：講師派遣・標準1日間（7時間） 〈スライド講義×ワーク×ディスカッション〉

○狙い：

本プログラムは、20代～30代の社員が、いわゆる“ぶれない仕事軸・キャリア軸”を醸成させるための研修です。「仕事とは何か」「成長とは何か」「仕事の報酬とは何か」といった根源的な問いを用意し、演習の中で本質を引き出し、自分の言葉で定義し、以降の業務に展開させていく訓練をします。抽象化→概念化→具体化の思考プロセスを体得させることで、自身の仕事とキャリアに軸と力を与えます。入社3年～5年目のフォローアップ研修やキャリア開発研修、自己啓発系研修（手挙げ式）メニューに向いています。

○コース概要：

■第1部：「コンセプチュアル思考」とは何か

- ・「知・情・意」の思考
 - 「知の思考」→ロジカル思考
 - 「情の思考」→デザイン思考
 - 「意の思考」→コンセプチュアル思考
- ・なぜ「コンセプチュアルに考える」ことが大事なのか
- ・「3つの思考フロー」
 - 1) 抽象化（引き抜く）
 - 2) 概念化（とらえる）
 - 3) 具体化（ひらく）
- ・「4つの思考スタンス」
 - 根源を見つめる
 - 全体を観る
 - 抽象と具体を往復する
 - 客観を超えて主観を持つ
- ・「5つの思考スキル」
 - 1) 定義化
 - 2) モデル化
 - 3) 類推
 - 4) 精錬
 - 5) 意味化
- ・コンセプチュアル思考が養う力
 - 根っこを見つめる力 ○本質を凝縮して表わす力
 - 構造・関係・仕組みをつかむ力 ○図で観る力 ○類型化する力
 - 他から学ぶ力 ○比喩を用いる力
 - 概念を起こす力
 - 意味を見出す力 ○ビジョンを描く力 ○価値の葛藤を乗り越える力 ○自己を再編する力

■第2部：仕事・キャリアに生かすコンセプチュアル思考

- 【演習1】自らの職種の本質をつかむ
- ・「販売」職の本質は何だろう？ 「開発」職の本質は何だろう？
 - ・職種名の語源にひそむコンセプト
 - ・自らの職種を自分の言葉で定義する
 - ・自らの職種を一枚の絵で表わす
- 【演習2】「成長とは何か」を考える
- ・事前課題「成長のエピソード」を共有する
 - ・事前課題「成長の定義」を共有する
 - ・「成長すること」を一枚の絵で表わす
 - ・継続的成長のための「3箇条」をつくる
- 【演習3】担当する製品・サービスに新しい光を当てる
- ・自商品を見つめ直す6つの精錬方法
 - ・既成の発想枠を外す「見立てドローイング」
 - ・異種要素の「掛け合わせ」による概念創造
- 【演習4】仕事・事業に意味を与える
- ・働くうえでの基盤価値の言語化
 - ・働く動機をあぶり出し
 - ・提供価値宣言～自分は世の中に何の価値を届ける職業人か
 - ・核にある価値を理念化、ビジョン化する

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

40代～50代向け

職業人としてのアイデンティティを見つめなおす

『コンセプチュアル思考』ワークマインド活性化コース

○対象：40～50代社員

○形式：講師派遣・標準1日間（7時間） 〈スライド講義×ワーク×ディスカッション〉

○狙い：

本プログラムは、40代～50代の社員（管理職／非管理職を問わず）が一職業人としての仕事観・キャリア観を見つめなおし、日ごろの担当業務および中期レンジの仕事生活に対してモチベーションを活性化させる研修です。

コンセプチュアル思考の観点から、仕事をどうとらえなおすか、担当製品・サービス・事業をどうとらえなおすかはもちろん、ライフキャリアの“ライフ（人生）”の部分をどうとらえなおすか、までをカバーします。ややもすると保守的に固まりがちなミドル・シニア層の方々の仕事観に揺さぶりをかけ、仕事・人生に新しい発想を呼び覚ます演習を組んでいます。

自己啓発系研修（手挙げ式）メニューとしてご用意されたり、キャリア開発研修として導入されることをお勧めいたします。

○コース概要：

■第1部：「コンセプチュアル思考」とは何か

- ・「知・情・意」の思考
 - 「知の思考」→ロジカル思考
 - 「情の思考」→デザイン思考
 - 「意の思考」→コンセプチュアル思考
- ・なぜ「コンセプチュアルに考える」ことが大事なのか
- ・「3つの思考フロー」
 - 1) 抽象化（引き抜く）
 - 2) 概念化（とらえる）
 - 3) 具体化（ひらく）
- ・「4つの思考スタンス」
 - 根源を見つめる
 - 全体を観る
 - 抽象と具体を往復する
 - 客観を超えて主観を持つ
- ・「5つの思考スキル」
 - 1) 定義化
 - 2) モデル化
 - 3) 類推
 - 4) 精練
 - 5) 意味化
- ・コンセプチュアル思考が養う力
 - 根っこを見つめる力 ○本質を凝縮して表わす力
 - 構造・関係・仕組みをつかむ力 ○図で観る力 ○類型化する力
 - 他から学ぶ力 ○比喩を用いる力
 - 概念を起こす力
 - 意味を見出す力 ○ビジョンを描く力 ○価値の葛藤を乗り越える力 ○自己を再編する力

■第2部：仕事・キャリアに生かすコンセプチュアル思考

- 【演習1】自らの職種の本質をつかむ
 - ・「販売」職の本質は何だろう？ 「開発」職の本質は何だろう？
 - ・職種名の語源にひそむコンセプト
 - ・自らの職種を自分の言葉で定義する
 - ・自らの職種を一枚の絵で表わす
- 【演習2】担当する製品・サービスに新しい光を当てる
 - ・自商品を見つめ直す6つの精練方法
 - ・既成の発想枠を外す「見立てドローイング」
 - ・異種要素の「掛け合わせ」による概念創造
- 【演習3】仕事・人生に意味を与える
 - ・働くうえでの基盤価値の言語化
 - ・働く動機をあぶり出し
 - ・提供価値宣言～自分は世の中に何の価値を届ける職業人か
 - ・「職業人として働いていく自分」のコンセプトづくり
 - 「一個人として生きていく自分」のコンセプトづくり
- 【演習4】自己を再編する
 - ・『モザイク作文』意図のもとに要素を編成する
 - ・『プロジェクトR』自己再編シミュレーション
 - ・「変える技術」と「変えない自己コンセプト」
 - ・天職とは“境地”である

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

仕事・キャリアの土壌となる「観」を掘り起こす 『コンセプチュアル思考』仕事観ワークショップ

○対象：年次・役職を問わず任意に設定できます
○形式：講師派遣・2時間30分のセッション×5回シリーズ（スライド講義×ワーク×ディスカッション）

○狙い：

本プログラムは、仕事・キャリア・事業・組織に関し、自分なりの「観」を醸成する内容です。2時間30分のワークショップを5回開催する形です（時間や回数のご要望に応じます）。
初回にコンセプチュアル思考の基本を学んだ後、2回目以降は根源的なテーマを立て、コンセプチュアルに考えていきます。いずれの回も深く考え、自分の観を言語化する演習を用意しています。そして受講者どうして各々の答えを披露しあいディスカッションすることで、自らの観が磨かれていくこととなります。
一方的な抽象論・観念論にとどまらないよう具体事例を織り交ぜながら、翌日からの業務で行動に移せるような仕掛けもあります。

○コース概要：

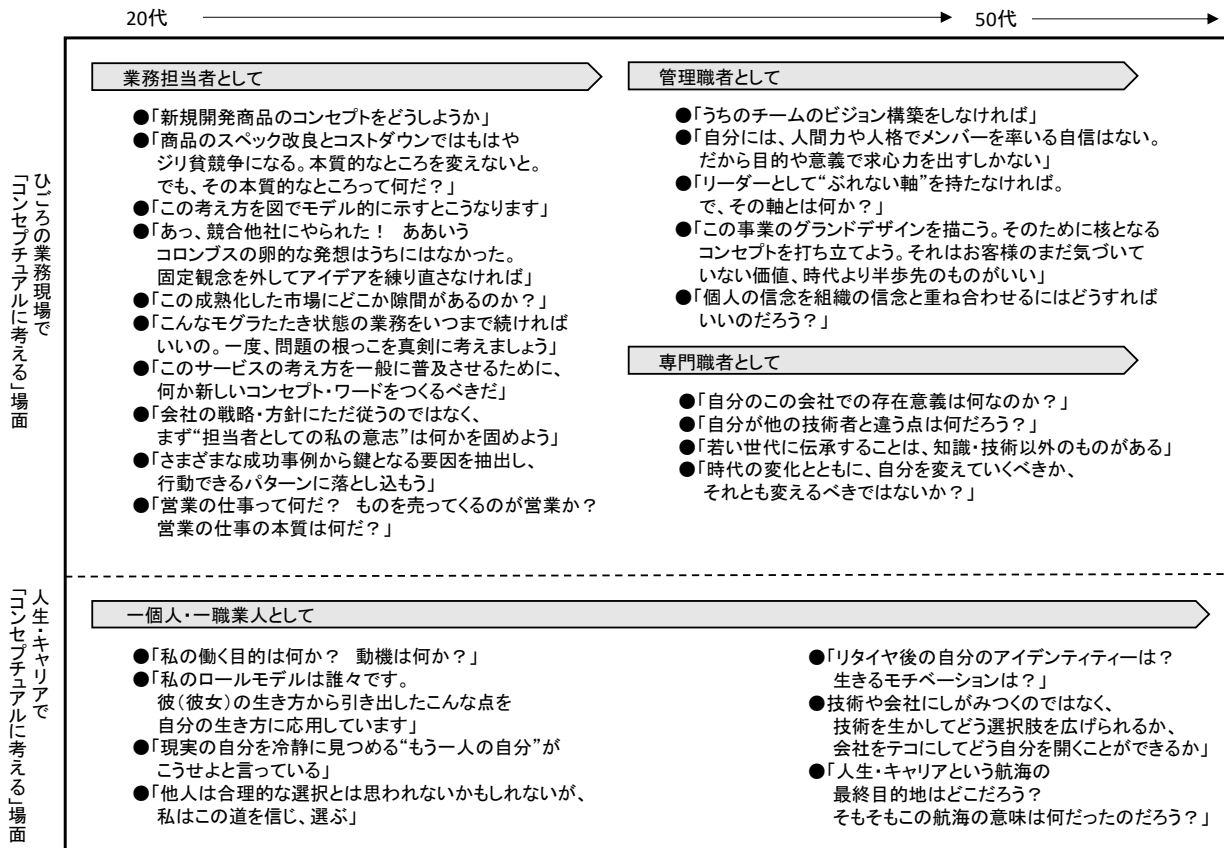
【セッション1】コンセプチュアルに考える基本	2時間30分
<ul style="list-style-type: none">・コンセプト (concept) とは「内にとらえる」こと・3つの思考フロー：抽象化→概念化→具体化・「多」くの事象から本質的な「一」を引き抜く思考力・「モデル化」して考えるとはどういうことか・意味をつかむことが最も難しい・客観を超えたところの主観が強い仕事・キャリア・事業を生み出す	
【セッション2】私の「成長」観	2時間30分
<ul style="list-style-type: none">・「成長」とは何かを自分の言葉で定義し、図で表わす・「成長」は目的か？・つかんだ「成長」のエッセンスを具体的な行動に変換する・「成長」のロールモデルを探す・成長のために「結果とプロセス」どちらが大事か？	
【セッション3】私の「職業」観	2時間30分
<ul style="list-style-type: none">・自分にとって「職業」とは何かを言葉にし、図にせよ・あなたは何の価値を世の中に届ける職業人か？・「プロフェッショナル」のもともとの意味・「仕事人」と「会社人」	
【セッション4】私の「会社」観	2時間30分
<ul style="list-style-type: none">・「会社」とは何かを定義せよ・「よい会社」とはどんな会社か？・「よい会社」のロールモデルを探す・「会社の事業目的」と「個人の働く目的」が異なるときどうするか・会社員としての「自己実現」とはどんなものか？	
【セッション5】私の「働く意味」観	2時間30分
<ul style="list-style-type: none">・仕事をする上での「基盤価値」を考える・「働く動機」を考える・働くことにそもそも「意味」は必要か？・「天職」とは何か？	

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒ doorbell@careerportrait.biz

御社の研修メニューのひとつとして 『コンセプチュアル思考』の導入を是非ご検討ください！

下表にまとめたように、ビジネスパーソンはさまざまな場面で“コンセプチュアルに考える”ことが求められるようになりました。これらの問いは、理詰めでも明快な答えが出せるものではありません。また、感性的に考えても腹落ちのする答えが持てるものでもありません。この種類の問いは、概念的に、意志的に、観をもって“コンセプチュアルに考えて”はじめて、答えを創造できるものです。

ビジネスパーソンはさまざまな場面で“コンセプチュアルに考える”ことが求められる



業務担当者から管理職・リーダーまで、あるいは、若手社員からミドル・シニア社員まで、それぞれに応じたプログラムを用意しております。

商品発想・事業発想を深化させるコース

- 〈ベーシック〉プログラム
- 〈アドバンス〉プログラム
- 〈インテンシブセミナー〉

仕事・キャリアに対する意識変革を起こすコース

- 〈ワークマインド醸成〉プログラム
- 〈ワークマインド活性化〉プログラム
- 〈仕事観ワークショップ〉

* 「コンセプチュアル思考」をもっとよく知るサイト

→ 『コンセプチュアル思考の教室』 <http://www.conceptualthink.com/>

* この研修・セミナーに関するお問い合わせメールアドレスは ⇒

doorbell@careerportrait.biz